

## 平成23年度入学者履修科目について

---

I	第Ⅰ群(各学科共通授業科目).....	1
	1 一般教育科目 .....	1
	2 外国語科目 .....	3
	3 保健体育科目 .....	6
	4 共通選択科目 .....	7
II	第Ⅱ群(学科別授業科目).....	8
	I 写真学科.....	9
	II 映画学科.....	12
	III 美術学科.....	16
	IV 音楽学科.....	18
	V 文芸学科.....	24
	VI 演劇学科.....	27
	VII 放送学科.....	30
	VIII デザイン学科.....	33
III	第Ⅲ群(学芸員課程).....	37
IV	教職課程.....	38

# 開 講 授 業 科 目

## I

### 第 I 群（各学科共通授業科目）

#### 1 一般教育科目

- ① 一般教育科目は、その学問領域から**人文分野・社会分野・自然分野**に大別されます。
- ② 一般教育科目を履修する場合は、上記の分野分けに関わらず、全ての一般教育科目の中から20単位以上を選択履修しなければなりません。
- ③ 一般教育科目は所沢校舎のみで開講されるため、1年次、2年次の間に所定の単位を取得するのが望ましい。
- ④ 一般教育科目は原則として全科目自由に選択できますが、各学科（コース）の性格や教職課程履修者によっては、一部必修に指定される場合もあるので注意してください。
- ⑤ 一般教育科目は原則として半期完結（前期または後期のみで授業を完結し単位を個別に認定する）科目です。
- ⑥ 芸術学部で開講される一般教育科目について、授業の内容がより予想し易いようにサブタイトルも授業計画（シラバス）に併記します。毎年度、授業担当者によって授業内容が変わればサブタイトルは変更される可能性があります。そのため、履修単位は学則上の授業科目名（以下の一般教育科目一覧表を参照）で扱われますので履修計画を立てるときは十分に注意してください。

授 業 科 目 名	単位数	必 修	選 択	履 修 方 法
<b>A 人 文 分 野</b>				
哲 学 I	2		2	
哲 学 II	2		2	
哲 学 III	2		2	
哲 学 IV	2		2	
論 理 学 I	2		2	
論 理 学 II	2		2	
倫 理 学 I	2		2	
倫 理 学 II	2		2	
歴 史 I	2		2	
歴 史 II	2		2	
文 学 I	2		2	
文 学 II	2		2	
国 文 学 I	2		2	
国 文 学 II	2		2	
漢 文 学 I	2		2	
漢 文 学 II	2		2	
美 学 I	2		2	
美 学 II	2		2	
美 学 III	2		2	
美 学 IV	2		2	

授 業 科 目 名	単位数	必 修	選 択	履 修 方 法
芸 術 学 I	2		2	} 留学生のみ履修できる
芸 術 学 II	2		2	
芸 術 学 III	2		2	
芸 術 学 IV	2		2	
日 本 の 文 化 I	2		2	
日 本 の 文 化 II	2		2	
<b>B 社 会 分 野</b>				} 教職課程は必修
法 学	2		2	
日 本 国 憲 法	2		2	
社 会 学 I	2		2	
社 会 学 II	2		2	
政 治 学 I	2		2	
政 治 学 II	2		2	
経 済 学 I	2		2	
経 済 学 II	2		2	
心 理 学 I	2		2	
心 理 学 II	2		2	
教 育 学 I	2		2	
教 育 学 II	2		2	
<b>C 自 然 分 野</b>				
数 学 I	2		2	
数 学 II	2		2	
統 計 学 I	2		2	
統 計 学 II	2		2	
物 理 学 I	2		2	
物 理 学 II	2		2	
化 学 I	2		2	
化 学 II	2		2	
科 学 概 論 I	2		2	
科 学 概 論 II	2		2	
自 然 科 学 史 I	2		2	
自 然 科 学 史 II	2		2	
考 古 学 I	2		2	
考 古 学 II	2		2	
人 類 学 I	2		2	
人 類 学 II	2		2	
情 報 科 学 I	2		2	
情 報 科 学 II	2		2	
情 報 処 理 I	2		2	
情 報 処 理 II	2		2	
情 報 処 理 III	2		2	
情 報 処 理 IV	2		2	

※分野を問わず20単位以上修得しなければなりません。

※年度により開講しない科目もあるので注意してください。

## 2 外国語科目

### 【概要】

#### ① 外国語の種類

外国語には選択必修の英語，ドイツ語，フランス語，日本語（留学生のみ）があります。そのうちひとつの外国語を選んで履修してください。また自由選択でイタリア語と中国語も履修できます。

#### ② 外国語の単位

外国語は必修です。卒業には1外国語8単位の修得が必要です。これを1，2年次に各4単位履修します。また留学生は，日本語に代えて英語，ドイツ語，フランス語を選択することもできます（母語が英語，ドイツ語，フランス語の場合は不可）。なお，単位修得のためには2／3以上の出席を必要とします。

#### ③ 外国語の開講

外国語は所沢，江古田の両校舎で開講されています。ただし，選択必修の外国語は所沢校舎だけで開講されていますので，履修を3年次以降に持ち越した場合は，所沢校舎で履修することになります。

#### ④ 複数の外国語を履修したい場合

複数の外国語を同時に並行して履修することもできます。ただし，選択必修として必ず英語，ドイツ語，フランス語，日本語（留学生のみ）の中から1外国語8単位を履修していなければなりません。下記の表を参照のこと。

※左欄から必修として1外国語を履修し，さらにそれ以外の外国語を右欄から選択できます。

英語	英語
ドイツ語	ドイツ語
フランス語	フランス語
日本語（留学生のみ）	日本語（留学生のみ）
	イタリア語
	中国語

### 【クラス名の表記】

#### ① 英語科目のクラス名

(1) 語学名，学科記号，ハイフン，整理番号（Ⅰ，Ⅱ，…），クラス記号（a，b，…）からなります。

【例】写真学科（p）の場合。

英語 p－Ⅰ a	英語 p－Ⅰ b	英語 p－Ⅰ c
英語 p－Ⅱ a	英語 p－Ⅱ b	英語 p－Ⅱ c
英語 p－Ⅲ a	英語 p－Ⅲ b	英語 p－Ⅲ c
英語 p－Ⅳ a	英語 p－Ⅳ b	英語 p－Ⅳ c

(2) 但し当該学科に1クラスしかない場合，a，b，cはつかず，\*－Ⅲ，\*－Ⅳのようになります。

(3) 学科記号は次のとおりです。

写 真	p	演 劇	t
映 画	c	放 送	b
美 術	f	デザイン	d
音 楽	m	学科指定なし	g
文 芸	l	(外国人講師担当)	

#### ② ドイツ語科目のクラス名

語学名，整理番号からなります。

ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ

#### ③ フランス語科目のクラス名

語学名，整理番号からなります。

フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ

④ 日本語科目のクラス名

語学名，整理番号からなります。

日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ

【英語・ドイツ語・フランス語・日本語科目の履修方法】

① 1年次生クラス，2年次生クラス

各語学科目とも，整理番号Ⅰ，Ⅱのつくクラスは1年次生用で，Ⅲ，Ⅳのつくクラスは2年次生用です。

② 1年次生，2年次生の履修方法

(1) 1年次生は学科と学年の所定のクラスを2クラス履修します。

(2) 2年次生は学科と学年の所定のクラスを2クラス履修します。

③ 再履修の方法

再履修を必要とする場合は，各語学科目とも，原則として再度もとのクラスで履修します。

④ gクラスの履修について

gクラスは，英語技能のいっそうの向上を目指す学生のために設けられたクラスであり，学科指定はなく，外国人講師が担当します。学科指定の英語クラスの代わりに履修することになり，Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの全部またはその一部をgクラスで履修することができます。

ドイツ語やフランス語や日本語を選択必修とした学生も履修できますが，英語の再履修者（2年次生以上で，前年度までに，英語が不合格になった者）は登録できません。英語を選択した履修者が，学科指定のクラスをgクラスへ変更するためには，学科指定のクラスの整理番号と同じ番号をもつgクラスへ移動しなければなりません。たとえば，学科指定のクラスの整理番号がⅠの場合，g-Ⅰしか履修できません。

〈所沢校舎開講〉

授 業 科 目 名			授業年次	単位数	必 修	選 択	履 修 方 法
英	語	Ⅰ	1	2		2	1ヵ国語8単位選択必修 ただし，日本語は留学生 のみ履修できる
英	語	Ⅱ	1	2		2	
英	語	Ⅲ	2	2		2	
英	語	Ⅳ	2	2		2	
ド	イ	ツ 語	Ⅰ	2		2	
ド	イ	ツ 語	Ⅱ	2		2	
ド	イ	ツ 語	Ⅲ	2		2	
ド	イ	ツ 語	Ⅳ	2		2	
フ	ラ	ン ス 語	Ⅰ	2		2	
フ	ラ	ン ス 語	Ⅱ	2		2	
フ	ラ	ン ス 語	Ⅲ	2		2	
フ	ラ	ン ス 語	Ⅳ	2		2	
日	本	語	Ⅰ	2		2	
日	本	語	Ⅱ	2		2	
日	本	語	Ⅲ	2		2	
日	本	語	Ⅳ	2		2	
イ	タ	リ ア 語	Ⅰ	2		2	
イ	タ	リ ア 語	Ⅱ	2		2	
中	国	語	Ⅰ	2		2	
中	国	語	Ⅱ	2		2	

※授業年次は，履修可能最低学年を示します。

以下の外国語科目は所沢校舎でも開講されます。

授 業 科 目 名	授業年次	単位数	必 修	選 択	履 修 方 法
実 践 ド イ ツ 語 I	1	2		2	} 留学生のみ履修できる
実 践 ド イ ツ 語 II	1	2		2	
実 践 フ ラ ン ス 語 I	1	2		2	
実 践 フ ラ ン ス 語 II	1	2		2	
日 本 語 上 級 I	1	2		2	
日 本 語 上 級 II	1	2		2	
イ タ リ ア 語 III	1	2		2	
イ タ リ ア 語 IV	1	2		2	
中 国 語 III	1	2		2	
中 国 語 IV	1	2		2	

※開講科目は、年度によって変わることがあります。

※授業年次は、履修可能最低学年を示します。

#### 【江古田校舎で開講されている外国語科目について】

外国語の学習は継続することが大切です。そこで3年次生以上を対象に、江古田校舎でも外国語の授業が開講されています。

#### 〈江古田校舎開講〉

授 業 科 目 名	授業年次	単位数	必 修	選 択	履 修 方 法
英 語 上 級 I	3	2		2	} 留学生のみ履修できる
英 語 上 級 II	3	2		2	
英 会 話 I	3	2		2	
英 会 話 II	3	2		2	
実 践 ド イ ツ 語 I	3	2		2	
実 践 ド イ ツ 語 II	3	2		2	
実 践 フ ラ ン ス 語 I	3	2		2	
実 践 フ ラ ン ス 語 II	3	2		2	
日 本 語 上 級 I	3	2		2	
日 本 語 上 級 II	3	2		2	
イ タ リ ア 語 III	3	2		2	
イ タ リ ア 語 IV	3	2		2	
中 国 語 III	3	2		2	
中 国 語 IV	3	2		2	

※授業年次は、履修可能最低学年を示します。

### 3 保健体育科目

#### 【履修要項】

#### ① 単位の構成

(1) 体育理論 必修（2単位）…単位を修得しなければ卒業出来ません。

(2) 体育実技 { 必修（1単位）…単位を修得しなければ卒業出来ません。  
                  { 選択（2単位）…卒業単位数にカウントされます。

◎理論（2単位）・実技（1単位）計3単位（いずれも必修科目）を修得しなければなりません。（前期又は、後期の半期間受講）

◎体育実技は、必修の他に1種目・1単位として2単位まで選択科目として単位を修得することが出来ます。（同じ種目は履修出来ません）

#### ② 理論内容とスポーツ種目

##### (1) 理論内容

ア 日常生活における健康管理……………（榎本）

イ 運動の重要性和肥満防止……………（松村）

ウ 健康と運動・スポーツ……………（西川）

エ 運動と健康の科学……………（高寄）

##### (2) スポーツ種目

ア ソフトボール

イ ダンス

ウ 硬式テニス

エ サッカー

オ 女子サッカー

カ バレーボール

キ バasketボール

ク 女子バasketボール

ケ バドミントン

コ 卓球

サ ゴルフ

シ ダンベル体操

ス ウェイトトレーニング

セ フィットネストレーニング

ソ ボクササイズ

タ スポーツストレッチング

チ スケート…冬期集中授業

ツ スキー…冬期集中授業

#### ③ 授業場所

(1) 所沢キャンパス内体育施設

(2) 軽井沢風越アリーナ

(3) 北竜湖スキー場

#### ④ 登録と履修手続

(1) 理論は前期又は後期及び曜日（担当者）を選択して下さい。

(2) 体育実技は、前期又は後期のスポーツ種目を曜日・時限共に選択し、申込用紙に必ず第5希望まで記入の上、提出して下さい。尚、前期・後期共に履修希望する場合、異なったスポーツ種目の受講となります。

#### ⑤ 受講曜日及びスポーツ種目決定

理論・実技共に教室及び実施場所の関係で、受講人数の調整を行います。調整決定に従って、受講して下さい。（無断で他の種目、他の曜日等で受講しても単位認定は出来ません）

#### ⑥ 単位認定の条件

(1) 理論…各担当者より指示があります。

(2) 実技…ア 出席は実週の80%以上必要です。（実技では遅刻を一切認めません）

イ テスト点60点以上必要です。

ウ 受講態度が良好であること。

エ トレーニングウェア、スポーツシューズを着用して下さい。

○指定されたTシャツを着用して下さい。

○テニス選択者はクレール用テニスシューズを必ず用意して下さい。

オ 健康診断は必ず受診して下さい。（受診していないと、実技は受講出来ません）

## 7 集中授業について

- (1) スケート……………2月上旬予定（4泊5日）  
 受講人数（80～100名）  
 長野県軽井沢町  
 軽井沢風越アリーナ
- (2) スキー……………2月下旬予定（4泊5日）  
 受講人数（80～120名）  
 長野県飯山市瑞穂  
 北竜湖スキー場

授 業 科 目 名		単位数	必 修	選 択	履 修 方 法
体	育(理論)	2	2		
体	育(実技)	3	1	2	

## 4 共通選択科目

芸術学部では、学科にまたがる総合的視野を身につける必要から、また国際性豊かな芸術人を育成することを目的として、8学科に共通して履修することが望ましい科目群として共通選択科目を設置しています。この科目群は、芸術における理論的な解明、その鑑賞批評、史的方法、思潮的展望などの授業を通して、芸術が人類の営みのどの部分に位置するかを考究しようとしています。

下表に示す共通選択科目は、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目・学科別授業科目のように取得すべき単位数は規定されていませんが、単位を取得すれば当然ながら卒業に必要な単位として算入される選択科目であり、その設置の趣旨からして履修することが望ましい科目群です。

授 業 科 目 名	授業年次	単位数	必 修	選 択	備 考
芸 術 学 特 殊 講 義	3	4		4	半期開講
芸 術 心 理 学	3	4		4	
芸 術 史 学	3	4		4	
鑑 賞 批 評 論	3	2		2	
芸 術 社 会 学	3	4		4	
近 代 芸 術	3	4		4	
芸 術 思 潮 史	2	4		4	
考 古 学 特 殊 講 義	3	4		4	
芸 術 総 合 講 座 I		4		4	
芸 術 総 合 講 座 II		4		4	
芸 術 総 合 講 座 III		4		4	
芸 術 総 合 講 座 IV		4		4	
芸 術 総 合 講 座 V		4		4	
芸 術 総 合 講 座 VI		4		4	
芸 術 総 合 講 座 VII		2		2	
芸 術 総 合 講 座 VIII		2		2	
芸 術 総 合 講 座 IX		2		2	
芸 術 総 合 講 座 X		2		2	

※授業年次は、履修可能最低学年を示します。

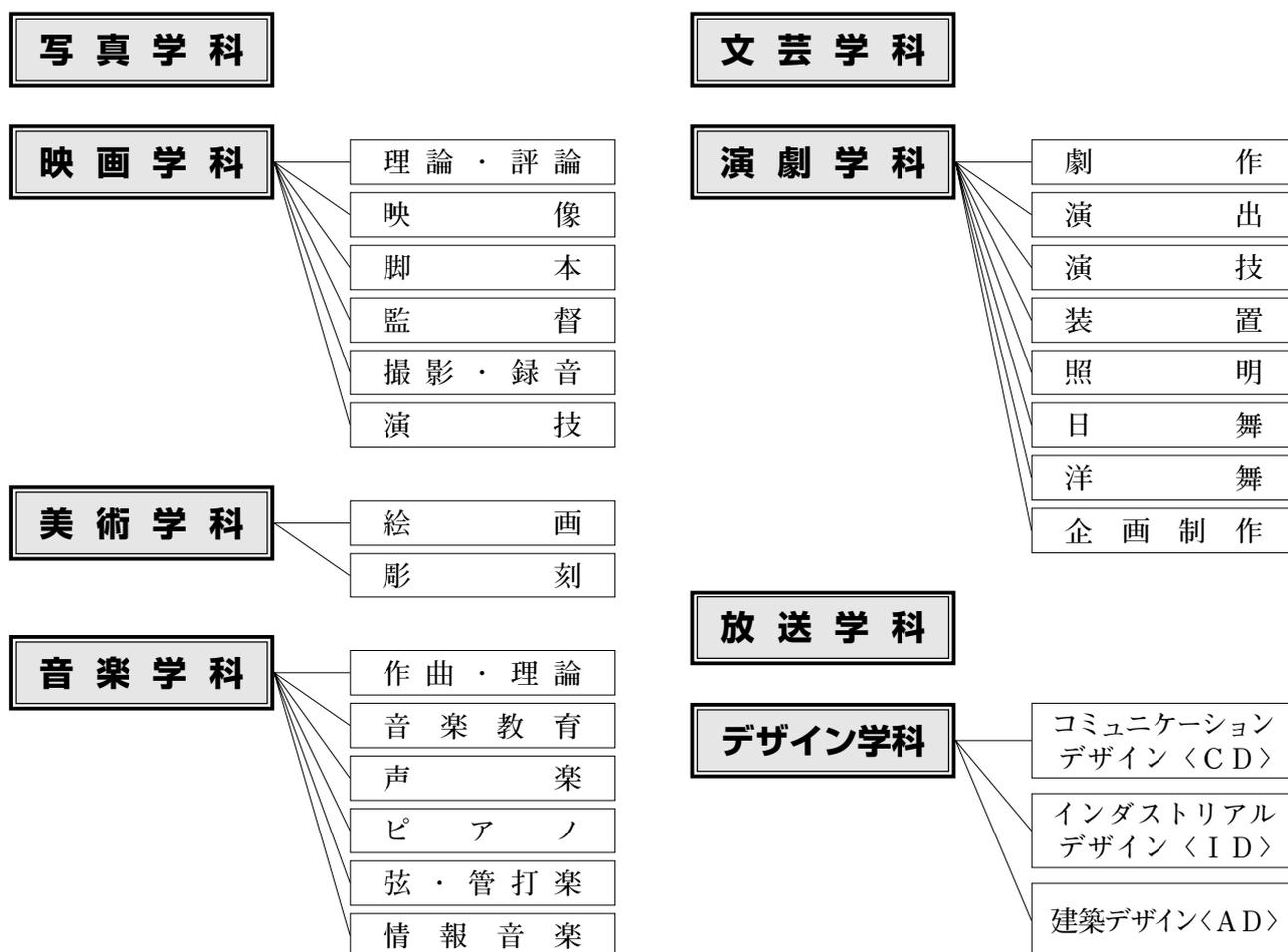
※年度により開講しない科目もあるので注意してください。



## 第Ⅱ群（学科別授業科目）

- 1 学科別授業科目は所属学科開講科目のうち必修科目・選択必修科目・選択科目，卒業論文（制作・計画・演奏・作品・研究）を含み，合計60単位以上を履修，修得しなければなりません。
- 2 学科別授業科目は，理論・歴史部門，研究部門，表現技術部門に分けられています。
- 3 学科別授業科目には学科あるいはコースにより必修・選択必修指定の科目があり，また，履修上いくつかの制約が設けられている科目もあるので十分注意してください。なお，その詳細は学科ごとの履修要項に示されています。
- 4 一般教育・外国語・保健体育科目と同様に所沢校舎のみで開講されている科目が未履修・未修得の場合は，江古田校舎移行後も所沢校舎で履修・修得しなければならないので注意してください。

### 学科(コース) 一覧



# I 写真学科

## 履修のはじめに

写真学科の専門科目は必修科目と選択科目に分かれていますが、必修・選択各科目とも教育効果を考えて受講可能年次の指定があります。受講にあたってはその指定に従い、順次受講することが望ましいです。

特に、写真基礎演習Ⅰ・写真基礎演習Ⅱ・写真基礎演習Ⅲ・ゼミナールは、写真学科の根幹をなす科目であり、1年次から順次受講をしていくのですが、それぞれの学年で必ず単位修得することを心がけてください。

1年次の「写真基礎演習Ⅰ」と2年次の「写真基礎演習Ⅱ」は、写真の基礎的研究と実技を総合したものであり、系統的な履修を実施し、本格的な研究と制作活動をするための基本的な知識の開発と技術部門の修練を目的としています。それは常に振り返りながら、新しい自主的な創造活動に取り組んでいくための準備段階です。したがって、これらの授業は技術的根幹であると同時に、創造的な研究活動の基本という意味をもちます。具体的には1年次では35mmカメラによる撮影と暗室作業、デジタル一眼レフカメラによる撮影とデジタルプリント作業、2年次には大型カメラによるスタジオ撮影・暗室作業の修得をめざします。そしてこのような専門教育においても可能な限り、学問の総合性を考慮して、関連する知識の導入を計りたいと考えています。そこで、他学科の公開科目や一般教育科目にも興味をもって受講し、幅広い知識の吸収を心がけてください。

3年次の「写真基礎演習Ⅲ」は、次のような観点から設定されています。つまり、自主的創造活動、研究活動を重視する中であって、自己の研究領域を発見し、そこにすべてのエネルギーを投入することを求めます。そして、発見した世界へ没頭できるような教育環境を作ることが、芸術に関与する大学、研究者としての大きな使命であると我々は考えています。しかしここでも、広い総合性と狭い専門分野の調和ということをお忘れではありません。「写真基礎演習Ⅲ」の各クラスがめざすテーマの有効性は実験的な探求のなかで立証してゆくべきであり、授業の中で備えるべき条件としては、次のようなことが必要でしょう。

- 1 テーマは興味深いもので担当者にとっても、演習者にとっても有効なものであること。
- 2 そのテーマを深く考察、研究することによってその中から卒業制作、あるいは論文への接近ができるような問題を含んだ、奥行きのあるもの。
- 3 グループによる共同研究でも、個々に分担されたテーマであってもさしつかえありません。
- 4 そのテーマの研究、あるいは制作プロセスにおいて演習担当者の指導、助言が必要であることはいうまでもありません。

以上のような、条件に包含されたテーマの研究、制作の成果は、各自の自主的、個性的な研究とその創造力に期待すべき点が多いですが、一方、各クラスは開放的な共通性が保たれることも必要で、クラス全体の具体的事例に即した討論、作品発表、統一テーマによる撮影実習、見学なども授業時間の中に計画されています。また、取り上げられるテーマの性質によっては、担当者以外の教員も特別講座の講師として招き、その人の専門分野に属する情報を吸収することも考慮したいと思います。「写真基礎演習Ⅲ」での成果は、4年次の「ゼミナール」へのアプローチとしても重要ですので、何らかの形で記録され、整理され、客観化されるべきであり、制作発表、展示会なども必要と思われます。

4年次の「ゼミナール」は、写真芸術、写真の歴史、写真評論、写真ジャーナリズム、報道写真、広告写真、コミュニケーション、ポートレート、建築写真、デジタル写真などの理論および演習を行います。同時に大学生活の総仕上げとして、4年次生は指導教員に卒業論文・制作の計画書を提出し、適宜その助言を受け、適切な指導の下に各自、論文・制作に十分な成果を上げるように配慮してください。

授 業 科 目 名	授業年次	単 位 数	必 修	選 択
<b>A 理論・歴史部門</b>				
写 真 芸 術 学	4	4	4	
写 真 史 I	1	2	2	
写 真 史 II	1	2	2	
写 真 概 論	1	2		2
イメージングプロセス論 I	1	4	4	
イメージングプロセス論 II	2	2		2
写 真 光 学	1	2	2	
写 真 化 学	2	2		2
カメラメカニズム	2	2		2
写 真 画 像 評 価	3	2		2
電 子 画 像 概 論	2	2	2	
色 彩 学 概 論	1	2	2	
色 彩 学 応 用	1	2		2
写 真 印 刷	3	2		2
<b>B 研究部門</b>				
写 真 作 家 作 品 研 究 I	2	4	}	4
写 真 作 家 作 品 研 究 II	3	4		(注1)
写 真 作 家 作 品 研 究 III	3	4		4
写 真 表 現 研 究 I	3	2		2
写 真 表 現 研 究 II	3	2		2
写 真 表 現 研 究 III	3	2		2
写 真 表 現 研 究 IV	3	2		2
写 真 特 別 講 座 I	2	2		2
写 真 特 別 講 座 II	3	2		2
写 真 特 別 講 座 III	3	2		2
写 真 特 別 講 座 IV	3	2		2
写 真 特 別 講 座 V	3	2		2
写 真 特 別 講 座 VI	3	2		2
写 真 特 別 講 座 VII	3	2		2
<b>C 表現技術部門</b>				
写 真 技 術 I	1	2		2
写 真 技 術 II	3	2		2
写 真 技 術 III	3	2		2
写 真 技 術 IV	3	2		2
写 真 技 術 V	3	2		2

授 業 科 目 名	授業年次	単 位 数	必 修	選 択
画 像 処 理 I	2	2		2
画 像 処 理 II	3	2		2
画 像 処 理 III	3	2		2
写 真 表 現 I	3	4		4
写 真 表 現 II	3	2		2
写 真 表 現 III	3	2		2
写 真 表 現 IV	3	2		2
写 真 基 礎 演 習 I	1	6	6	
写 真 基 礎 演 習 II	2	6	6	
写 真 基 礎 演 習 III	3	4	4	
ゼ ミ ナ ー ル	4	4	4	
卒 業 論 文 ・ 制 作	4	8	8	

\*授業年次は、履修可能最低学年を示します。

\*1・2年次に配当された科目は、原則的に所沢校舎のみの開講なので2年次までに必ず履修してください。

(注1) 写真作家作品研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、いずれか1科目を選択必修。

## Ⅱ 映画学科

1 映画学科では、履修する主要科目の違いによって以下のコースに分かれています。

理論・評論コース

映像コース

脚本コース

監督コース

撮影・録音コース

演技コース

2 映画学科における受講方法等

- ①一般教育科目のうち、物理学Ⅰ・Ⅱおよび化学Ⅰ・Ⅱは撮影・録音コースにおいても必要な基礎授業を行うので優先的に履修する事。(ただし物理学は物理学ⅠB・ⅡBを化学は化学ⅠC・ⅡCを受講してください)
- ②学科別授業科目は映画学科専門科目から卒業までに60単位以上修得しなければならず、なおかつその中に各年次、各コースごとに指定された必修科目すべてが含まれていなければなりません。
- ③映画学科専門科目のうち、履修方法が変則的な科目の受講要領は以下の通りです。
  - (1) 映画分析、映像、シナリオ、映画演出、映画技術、映画演技実習の各科目はそれぞれⅠ・Ⅱ・Ⅲ(映画演技実習の場合のみ映画演技基礎を修得した後のⅠ・Ⅱ)に設定し、開講されていますが、これを順次履修することになります。不合格者の上級科目登録は認めません。
  - (2) センシトメトリーの科目は、講義時間のほかに、実験・演習などの時間が設定されています。受講者はその双方を同時に履修しなければなりません。
  - (3) 撮影・録音コースの撮影研究Ⅰ・撮影研究Ⅱ・録音研究Ⅰ・録音研究Ⅱは、この中から2科目(4単位)以上修得しなければなりません。
  - (4) 映画演技実習の実施内容には、試演会及び映画演出・卒業制作の作品に出演することが含まれています。
  - (5) 演技コースの発声、音楽、日舞、洋舞の履修方法は、以下の通りです。
    - ・発声Ⅰ、音楽Ⅰ、日舞Ⅰ、洋舞Ⅰは、すべて必修科目です。
    - ・発声Ⅱ、発声Ⅲ、音楽Ⅱ、音楽Ⅲは、この中から2科目(4単位)以上修得しなければなりません。
    - ・日舞Ⅱ、日舞Ⅲ、洋舞Ⅱ、洋舞Ⅲは、この中から2科目(4単位)以上修得しなければなりません。
  - (6) 演技コースの学生は、演劇学科開講科目で受講可能な科目をできるだけ修得することが望まれます。

授 業 科 目 名	授業年次	単位数	理・評	映 像	脚 本	監 督	撮・録	演 技
<b>一般教育の自然分野</b>								
物 理 学 I B	1							
物 理 学 II B	1							
化 学 I C	1							
化 学 II C	1							
<b>A 理論・歴史部門</b>								
映 画 芸 術 学 I	1	4	4	4	4	4	4	4
映 画 芸 術 学 II	3・4	4						
写 真 光 学 (映 画)	1・2	2					2	
映 像 概 論	1	4		4				
映 像 心 理 学	3・4	4						
日 本 映 画 史 I	1	2	2	2	2	2	2	2
日 本 映 画 史 II	1・2	2						
外 国 映 画 史 I	2	2	2	2	2	2	2	2
外 国 映 画 史 II	2	2						
映 画 社 会 史	3・4	4						
記 録 映 画 史	3・4	4						
<b>B 研究部門</b>								
シ ナ リ オ 論	2	4	4	4	4	4	4	4
映 画 作 品 研 究	3	4	4					
映 画 鑑 賞 批 評 I	1・2	2						
映 画 鑑 賞 批 評 II	1・2	2						
映 画 鑑 賞 批 評 III	3・4	2						
映 画 理 論 原 典 I	3	4	4					
映 画 理 論 原 典 II	3・4	4						
映 画 特 講 I	3・4	4	4 注1 (p.33)					
映 画 特 講 II	3・4	4						
映 画 特 講 III	3・4	4						
映 画 特 講 IV	1・2	4						
映 画 特 講 V	3・4	4						
映 画 特 講 VI	3・4	4						
映 画 特 講 VII	3・4	4						
映 像 特 講 I	3・4	4						
映 像 特 講 II	3・4	4						
映 像 特 講 III	3・4	4						
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	3・4	4						
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II	3・4	4						
シ ナ リ オ 分 析 I	3・4	2						
シ ナ リ オ 分 析 II	3・4	2						
映 画 特 別 講 座 I	3・4	2						
映 画 特 別 講 座 II	3・4	2						

授 業 科 目 名	授業年次	単位数	理・評	映 像	脚 本	監 督	撮・録	演 技
<b>C 表現技術部門</b>								
映 画 基 礎 演 習	1	1						
映 画 演 出 論	3・4	4					4 録	
映 画 音 楽	3	4						
映 画 技 術 論	3・4	4						
センシトメトリー(映画)	3	4					4	
映 画 研 究 I	3・4	1						
映 画 研 究 II	3・4	1						
音 響 基 礎	3	2					2	
電 気 基 礎	3	2					2	
録 音 機 器	3・4	2						
音 響 表 現	3・4	2						
映 画 分 析 I	1	4	4					
映 画 分 析 II	2	4	4					
映 画 分 析 III	3	4	4					
理 論 演 習 I	2	2	2					
理 論 演 習 II	3・4	2						
シ ナ リ オ I	1	4			4			
シ ナ リ オ II	2	4			4			
シ ナ リ オ III	3	4			4			
シ ナ リ オ 作 法 I	1	2				2		
シ ナ リ オ 作 法 II	2	2				2		
シ ナ リ オ 作 法 III	3	2				2		
シ ナ リ オ 基 礎	1	4			4			
シ ナ リ オ 演 習 I	1・2	4			4			
シ ナ リ オ 演 習 II	3・4	4						
映 画 演 出 I	1	4				4		
映 画 演 出 II	2	4				4		
映 画 演 出 III	3	4				4		
映 画 演 出 基 礎	1	4				4		
演 技 指 導 実 習 I	2	2				2		2
演 技 指 導 実 習 II	3	2				2		2
映 画 演 技 基 礎	1	2						2
映 画 演 技 実 習 I	2	2						2
映 画 演 技 実 習 II	3	2						2
発 声 I	1	2						2
発 声 II	2	2						注2 (p.33)
発 声 III	3・4	2						注2 (p.33)
音 楽 I	1	2						2
音 楽 II	2	2						注2 (p.33)
音 楽 III	3・4	2						注2 (p.33)

授 業 科 目 名			授業年次	単位数	理・評	映 像	脚 本	監 督	撮・録	演 技
日	舞	I	1	2						2
日	舞	II	2	2						注3 (p.33)
日	舞	III	3・4	2						注3 (p.33)
洋	舞	I	1	2						2
洋	舞	II	2	2						注3 (p.33)
洋	舞	III	3・4	2						注3 (p.33)
映 画 技 術 基 礎			1	4					4	
映 画 技 術 I			1	4					4	
映 画 技 術 II			2	4					4	
映 画 技 術 III			3	4					4	
撮 影 研 究 I			3・4	2					注4 (p.33)	
撮 影 研 究 II			3・4	2					注4 (p.33)	
映 画 編 集			2・3	2		2		2	2	
録 音 研 究 I			3・4	2					注4 (p.33)	
録 音 研 究 II			3・4	2					注4 (p.33)	
映 像 技 術 基 礎			1	2		2				
映 像 I			1	4		4				
映 像 II			2	4		4				
映 像 III			3	4		4				
映 像 メ デ ィ ア 演 習			2	2		2				
映 像 編 集			3	2		2				
ア ニ メ ー シ ョ ン I			3・4	2						
ア ニ メ ー シ ョ ン II			3・4	2						
ビ デ オ 研 究 I			3・4	2						
ビ デ オ 研 究 II			3・4	2						
コ ン ピ ュ ー タ 映 像 研 究 I			3・4	2						
コ ン ピ ュ ー タ 映 像 研 究 II			3・4	2						
綜 合 制 作 演 習 I			2	2						
綜 合 制 作 演 習 II			3・4	2						
綜 合 制 作 演 習 III			3・4	2						
卒 業 論 文 ・ 制 作 ・ 計 画			4	8	8	8	8	8	8	8

\*コース別の欄に単位数の記載がある科目は、コースごとの必修科目であり、指定の授業年次に必ず履修し単位を修得してください。

\*授業年次が1, 2年次に記載されている科目は、所沢校舎のみ開講なので2年次までに履修し単位を修得してください。

注1 映画特講は、いずれか1科目履修してください。(理論・評論コース)

注2, 注3 はp.30, 2③(5)に従って履修してください。(演技コース)

注4 はp.30, 2③(3)に従って履修してください。(撮影・録音コース)

### Ⅲ 美術学科

美術学科では、履修する主要科目の違いによって以下のコースに分かれています。

絵画コース

彫刻コース

#### 1 各コースの履修方法について

##### ① 絵画コースについて

1年次には、デッサン（1単位）、絵画Ⅰ（4単位）、2年次には絵画Ⅱ（6単位）を履修してください。

3年次以降は卒業制作に油絵と版画のいずれを選択するかによって履修する科目が異なります。油絵を選択した学生は、3年次に絵画Ⅲ（6単位）を、4年次に絵画Ⅳ（6単位）と卒業制作（8単位）をそれぞれ履修してください。版画を選択した学生は、3年次に版画Ⅰ（6単位）を、4年次に版画Ⅱ（6単位）と卒業制作（8単位）をそれぞれ履修してください。

##### ② 彫刻コースについて

1年次にはデッサン（1単位）と彫刻Ⅰ（4単位）を、2～4年次には彫刻Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ（計26単位）をそれぞれ段階的に履修し、4年次に卒業制作（8単位）を履修してください。

##### ③ 両コース共通

理論・歴史部門から美術史概論Ⅰ・Ⅱ（各4単位）のいずれか1科目と西洋美術史Ⅰ・Ⅱ、日本美術史Ⅰ・Ⅱ、東洋美術史（各4単位）の中からいずれか2科目を履修してください。

研究部門からは、美術作品研究Ⅰ・Ⅱ（各4単位）と美術作品研究Ⅲ・Ⅳ（各4単位）からそれぞれ1科目を履修してください。

表現部門からは、1、2年次に美術基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ、古典技法、版画基礎Ⅰ・Ⅱ、彫塑Ⅰ・Ⅱ（各1単位）の中から4科目を履修してください。

#### 2 履修上の注意

① 別表のコースの欄に単位数の記載がある科目は、コースの必修科目なので必ず履修しなければなりません。

② 別表コースの欄に単位数の記載がない科目は、原則的に選択科目として授業年次に履修することができます。

③ 卒業制作（8単位）は卒業論文（8単位）をもって変えることができます。この場合あらかじめ学務委員に申し出て相談してください。

授 業 科 目 名	授業年次	単 位 数	絵 画	彫 刻
<b>A 理論・歴史部門</b>				
美術学	3・4	4		
解剖学	3・4	4		
色彩学	1・2	4		
美術史概論Ⅰ	1・2	4	} 4	} 4
美術史概論Ⅱ	1・2	4		
西洋美術史Ⅰ	3・4	4	} 8	} 8
西洋美術史Ⅱ	3・4	4		
日本美術史Ⅰ	3・4	4		
日本美術史Ⅱ	3・4	4		
東洋美術史	3・4	4		

授 業 科 目 名	授業年次	単 位 数	絵 画	彫 刻
<b>B 研 究 部 門</b>				
素 材 研 究	3・4	2		
美 的 構 成 研 究	3・4	4		
版 画 概 論	3・4	4		
美 術 作 品 研 究 I	1・2	4	} 4	} 4
美 術 作 品 研 究 II	1・2	4		
美 術 作 品 研 究 III	3・4	4	} 4	} 4
美 術 作 品 研 究 IV	3・4	4		
美 術 特 別 講 座 I	1～4	2		
美 術 特 別 講 座 II	1～4	2		
古 美 術 研 究	3	4		
版 画 作 品 研 究	2	2		
美 術 特 別 研 究 I	3	2		
美 術 特 別 研 究 II	4	2		
<b>C 表 現 部 門</b>				
デッサン	1	1	1	1
彫刻 I	1	4		4
彫刻 II	2	6		6
彫刻 III	2	4		4
彫刻 IV	3	6		6
彫刻 V	3	4		4
彫刻 VI	4	6		6
絵画 I	1	4	4	
絵画 II	2	6	6	
絵画 III	3	6	6	
絵画 IV	4	6	6	
版画 I	3	6	6	
版画 II	4	6	6	
美術基礎演習 I	2	1	} 4	} 4
美術基礎演習 II	1	1		
美術基礎演習 III	2	1		
美術基礎演習 IV	2	1		
美術基礎演習 V	2	1		
美術基礎演習 VI	1	1		
美術基礎演習 VII	1	1		
古版画基礎技法 I	1	1		
古版画基礎技法 II	2	1		
彫塑 I	1	1	} 4	} 4
彫塑 II	2	1		
卒業論文・制作	4	8	8	8
<b>D 教 職 教 科 部 門</b>				
(教職免許を修得するための科目により卒業単位には含まれません)				
デザイン論 I	1・2	2		
デザイン論 II	1・2	2		
図学 I	1・2	2		
図学 II	1・2	2		
美術教材研究 I	3・4	2		
美術教材研究 II	3・4	2		
工芸演習 I	2	2		
工芸演習 II	2	2		
映像メディア研究	3	1		

## IV 音楽学科

### 1 コース区別

音楽学科は、履修する主要科目の違いによって次の6コースに分かれています。

#### A・作曲理論コース

作曲

理論

#### B・音楽教育コース

#### C・声楽コース

#### D・ピアノコース

#### E・弦管打楽コース

弦楽 (Vn., Va., Vc., Cb., Gt., Harp.)

管打楽 (Fl., Ob., Cl., Fg., Sax., Hr., Tp., Tb., Euph., Tub., Perc.)

#### F・情報音楽コース

注. A～Fは学生証番号の記号。弦楽・管打楽の( )内は専攻楽器。

### 2 主要科目

各コースの主要科目は次のとおりです。

作曲理論コース	作曲 理論	作曲
		音楽学Ⅰ・音楽学Ⅱ・ゼミナール
音楽教育コース		音楽教育学Ⅰ・ゼミナール
声楽コース		声楽
ピアノコース		ピアノ
弦管打楽コース	弦楽 管打楽	弦楽
		管打楽
情報音楽コース		情報音楽研究・情報音楽演習・ゼミナール

### 3 オーケストラ・室内楽・オペラ関係授業の履修方法

- ① オーケストラは、弦楽コース（ギター専攻を除く）の学生は学年を問わず全員が履修しなければなりません。
- ② 弦管打楽コースの学生にとっては、室内楽の授業は大変重要であるので可能な限り受講すること。
- ③ オペラⅡ～Ⅴの履修は、前年度中（時期については掲示で発表）に受講予定の申し込みを行い、オーディションの結果をもとに適宜配役を決定し、それに基づいて登録してください。
- ④ オペラ、室内楽、オーケストラおよび吹奏楽の出席については、アンサンブルの特殊性により、特別な事情がない限りすべて出席しなければなりません。やむを得ぬ事情で欠席する場合は、事前に担当教員に申し出ること。

### 4 実技関係科目の単位認定方法

専門科目のうち表現技術部門（実技科目）の次に掲げる科目については、それぞれに規定する方法により単位を認定します。なお、それ以外の科目については、授業計画<シラバス>を参照のこと。

- ① 声楽・ピアノ・弦楽器・管打楽器及びそれぞれの副科科目については、実技試験<指導教員の合同審査による平均点>と平常点<各指導教員が採点>により採点します。

- ② 伴奏法の科目については、つぎの a 及び b のいずれかの方法により認定します。なお b の方法により単位の取得を希望する者はあらかじめ所定の届け出をしなければなりません。
- a. 受講登録年度の平常授業によって単位の認定を受けるもの。
  - b. 学科主催の演奏会や試演会及び各専攻実技試験において7回以上の伴奏をすることによって単位の認定を受けるもの。この場合の7回は1ヶ年度で達成しない場合は、翌年度以降に累計されます。この場合、7回目以上に達する予定の年度に単位の登録手続きを完了し、かつ、当該年度末における伴奏法の実技試験を受けなければなりません。  
また、作品の演奏や、独唱、独奏等の伴奏をした場合は、所定の累加カードに指導教員認印と学科の認印を受けなければなりません。

## 5 実技試験

実技試験は、通常年2回（前期・後期）、教員の合同審査により行います。ただし、科目により学年末試験（1回）のみの場合もあります。

- ① 受験資格は、出席が2/3以上でなければなりません。なお、出席率の確認は、曲目登録時に指導教員により認定印を受けることによって行います。
- ② 受験曲については、指示された課題や指定事項等に従って選曲し、指導教員の承認を得て所定の登録用紙により提出期限までに届け出てください。提出期限に遅れた場合、試験は受けられません。
- ③ 受験曲は、それまでの実技試験、試演会及び入学試験等において演奏した曲とは重複してはなりません。（重複した場合は、合格した後でも取消しとなります）

## 6 試演会・研究中間レポート

- ① 試演会は、音楽特別演習として単位が認められます。
- ② 試演会及び研究中間レポートは、2年次より卒業年次までの間に、それぞれ専攻する部門に2回以上、演奏又はレポートを提出しなければなりません。  
試演会……………作曲・声楽・ピアノ・弦管打楽の各コース学生  
研究中間レポートの提出……理論・音楽教育・情報音楽の各コース学生
- ③ 試演会は、通常毎年6～7月に実施します。  
研究中間レポートは所定期間（掲示で発表）に提出してください。
- ④ 演奏・作品の所要時間は原則として5分程度から長くても12分を越えない範囲で指導教員が認めたものとします。  
研究中間レポートの所要枚数等は、5枚（1枚を1600字程度）とし、課題は指導教員が認めたものとします。
- ⑤ 各部門とも審査員により可否を判定します。
- ⑥ 演奏部門、作品部門の試演会は、公開とします。
- ⑦ 試演会の開催日時と一般教育科目（外国語・保健体育も含む）等の授業が重複した場合は事前に必ず音楽学科研究室に届け出てください。（重複した場合は一般教育科目等の出席を優先し、試演会の出演順序の変更を調整します。届け出を怠り一般教育科目等を欠席することのないように注意してください）

## コース別単位履修表

- 1 各コース欄に単位数の記載のある科目は、当該コースの必修科目であるので必ず履修しなければなりません。
- 2 コース欄に○印が付してある科目は、準必修科目として優先的に履修しなければなりません。
- 3 コース欄が空欄になっている科目は、選択科目として所定の授業年次または当該年次以降において履修することができます。なおコース欄に一印のある科目は履修することができません。
- 4 表現技術部門の科目で、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと表記されている科目は、段階的に履修しなければなりません。また同一年度において2段階以上（例：ⅠとⅡ、ⅡとⅢ等）の同時履修はできません（ただし、オペラ・ミュージカルはその限りではない）。
- 5 1・2年次において履修すべき必修科目は、所沢校舎のみの開講科目なので、2年次までに必ず修得しなければなりません。不合格の場合は3年次（江古田校舎）においても当該科目の履修を所沢校舎においてしなければなりません。

授 業 科 目 名	授 業 年 次	単位数	作 曲 ・ 理 論		音 楽 教 育	声 楽	ピ ア ノ	弦 管 打 楽		情 報 音 楽
			作 曲	理 論				弦 楽	管 打 楽	
<b>A 理論・歴史部門</b>										
音 楽 学 Ⅰ	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4
音 楽 学 Ⅱ	2	4		4						
音 響 学	1	4								—
音 楽 形 式 学	2	4		4	4	4	4	4	4	4
音 楽 教 育 学 Ⅰ	2	4			4					
音 楽 教 育 学 Ⅱ	3	4								
音 声 学	3	4				○				
音 楽 心 理 学	1	2								
臨 床 心 理 学	3	4								
作 曲 論 Ⅰ	3	2	○	○						
作 曲 論 Ⅱ	3	2	○							
演 奏 論 Ⅰ	1	2					2			
演 奏 論 Ⅱ	3	2					2			
情 報 音 楽 概 論	3	4								—
ジ ャ ズ 概 論	3	4								
社 会 福 祉 概 論	3	2								
音 楽 史 Ⅰ	3	2								
音 楽 史 Ⅱ	3	2								
音 楽 史 Ⅲ	3	2								
音 楽 史 Ⅳ	3	2								
音 楽 史 Ⅴ	3	2								
音 楽 史 Ⅵ	3	2								
<b>B 研究部門</b>										
音 楽 学 研 究	2	4	—		—	—	—	—	—	4
音 楽 教 育 学 研 究	3	4	—	—	○	—	—	—	—	—
音 楽 教 育 研 究 Ⅰ	1	4			○					
音 楽 教 育 研 究 Ⅱ	3	4								
音 楽 教 育 研 究 Ⅲ	3	4								

授 業 科 目 名	授 業 年 次	単位数	作曲・理論		音 楽 教 育	声 楽	ピアノ	弦管打楽		情 報 音 楽
			作 曲	理 論				弦 楽	管打楽	
情報音楽研究Ⅰ	1	4	—	—	—	—	—	—	—	4
情報音楽研究Ⅱ	2	4	—	—	—	—	—	—	—	4
情報音楽研究Ⅲ	3	4	—	—	—	—	—	—	—	4
情報音楽研究Ⅳ	4	4	—	—	—	—	—	—	—	○
音楽療法研究Ⅰ	1	4		○	○					
音楽療法研究Ⅱ	2	4								
音楽療法研究Ⅲ	3	4								
音楽療法研究Ⅳ	4	4								
音楽作品研究Ⅰ	3	2		(2)						
音楽作品研究Ⅱ	3	2		(2)						
雅 楽 研 究	3	4		(4)						
日本歌曲研究	3	4				○				
音楽特殊研究Ⅰ	3	2								
音楽特殊研究Ⅱ	3	2		○						
音楽特殊研究Ⅲ	3	4								
音楽特殊研究Ⅳ	3	4								
音楽療法特殊研究Ⅰ	2	2								
音楽療法特殊研究Ⅱ	2	2								
音楽療法特殊研究Ⅲ	3	2								
音楽療法特殊研究Ⅳ	3	2								
音楽文献原典講読Ⅰ	3	2		2						
音楽文献原典講読Ⅱ	3	2								
音楽特別講座Ⅰ	1	2								
音楽特別講座Ⅱ	3	2								
<b>C 表現技術部門</b>										
作 曲 Ⅰ	1	4	4	—	—	—	—	—	—	—
作 曲 Ⅱ	2	4	4	—	—	—	—	—	—	—
作 曲 Ⅲ	3	4	4	—	—	—	—	—	—	—
作 曲 Ⅳ	4	4	—	—	—	—	—	—	—	—
副科作曲Ⅰ注2	2~4	2	—	2	2	2	2	2	2	2
副科作曲Ⅱ	3・4	2	—							○
和 声 Ⅰ	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4
和 声 Ⅱ	2	4	4							
フ ー ガ	1	4	4	—	—	—	—	—	—	—
オーケストレーション	3	4	○							
ピ ア ノ Ⅰ	1	4	—	—	4	—	4	—	—	—
ピ ア ノ Ⅱ	2	4	—	—	4	—	4	—	—	—
ピ ア ノ Ⅲ	3	4	—	—	○	—	4	—	—	—
ピ ア ノ Ⅳ	4	4	—	—		—		—	—	—
副科ピアノⅠ	1	2	2	2	—	2	—	2	2	2
副科ピアノⅡ	2	2	2	2	—	2	—	2	2	2
副科ピアノⅢ	3	2			—		—			
副科ピアノⅣ	4	2			—		—			

授 業 科 目 名	授 業 年 次	単 位 数	作 曲 ・ 理 論		音 楽 教 育	声 楽	ピ ア ノ	弦 管 打 楽		情 報 音 楽
			作 曲	理 論				弦 楽	管 打 楽	
オ ル ガ ン I	3	2								
オ ル ガ ン II	4	2								
伴 奏 法 I	3	2								
伴 奏 法 II	4	2								
声 楽 I	1	4	—	—	4	4	—	—	—	—
声 楽 II	2	4	—	—	4	4	—	—	—	—
声 楽 III	3	4	—	—	○	4	—	—	—	—
声 楽 IV	4	4	—	—			—	—	—	—
副 科 声 楽 I	1・2	2	2	2	—	—	2	2	2	2
副 科 声 楽 II	注3	2			—	—				
副 科 声 楽 III	注3	3			—	—				
副 科 声 楽 IV	注3	4			—	—				
合 唱 I	1～3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合 唱 II	注4	2～4			2	2				
合 唱 III	注4	3								
合 唱 IV	注4	4								
オ ペ ラ I	2	2								
オ ペ ラ II	3	2								
オ ペ ラ III	3	2								
オ ペ ラ IV	4	2								
オ ペ ラ V	4	2								
ミ ュ ー ジ カ ル I	3	2								
ミ ュ ー ジ カ ル II	3	2								
ミ ュ ー ジ カ ル III	4	2								
ミ ュ ー ジ カ ル IV	4	2								
弦 楽 器 I	1	4	—	—	—	—	—	4	—	—
弦 楽 器 II	2	4	—	—	—	—	—	4	—	—
弦 楽 器 III	3	4	—	—	—	—	—	4	—	—
弦 楽 器 IV	4	4	—	—	—	—	—	—	—	—
副 科 弦 楽 器 I	1	2								
副 科 弦 楽 器 II	2	2								
副 科 弦 楽 器 III	3	2								
副 科 弦 楽 器 IV	4	2								
管 打 楽 器 I	1	4	—	—	—	—	—	—	4	—
管 打 楽 器 II	2	4	—	—	—	—	—	—	4	—
管 打 楽 器 III	3	4	—	—	—	—	—	—	4	—
管 打 楽 器 IV	4	4	—	—	—	—	—	—	—	—
副 科 管 打 楽 器 I	1	2								
副 科 管 打 楽 器 II	2	2								
副 科 管 打 楽 器 III	3	2								
副 科 管 打 楽 器 IV	4	2								
オ ー ケ ス ト ラ I	1	2						2	○	注5
オ ー ケ ス ト ラ II	2	2					2	注5	○	注5
オ ー ケ ス ト ラ III	3	2					2			

授 業 科 目 名	授 業 年 次	単 位 数	作 曲 ・ 理 論		音 楽 教 育	声 楽	ピ ア ノ	弦 管 打 楽		情 報 音 楽
			作 曲	理 論				弦 楽	管 打 楽	
オーケストラⅣ	4	2						○		
吹奏楽Ⅰ	1	2							2	
吹奏楽Ⅱ	2	2							2	
吹奏楽Ⅲ	3	2							2	
吹奏楽Ⅳ	4	2								
室内楽Ⅰ	1	2						2	2	
室内楽Ⅱ	2	2							2	
室内楽Ⅲ	3	2								
室内楽Ⅳ	4	2								
情報音楽演習Ⅰ	1	2	—	—	—	—	—	—	—	2
情報音楽演習Ⅱ	2	2	—	—	—	—	—	—	—	2
情報音楽演習Ⅲ	3	2	—	—	—	—	—	—	—	2
情報音楽演習Ⅳ	4	2	—	—	—	—	—	—	—	○
ソルフェージュⅠ	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
ソルフェージュⅡ	2	2	2	2	2	2	2			
ソルフェージュⅢ	3	2								
指揮法演習	3	2								
音楽教材演習	3	2								
教育用楽器等合奏法	3	2								
音楽療法演習Ⅰ	1	2								
音楽療法演習Ⅱ	2	2								
音楽療法演習Ⅲ	3	2								
音楽療法演習Ⅳ	4	2								
音楽療法実習Ⅰ	3	2								
音楽療法実習Ⅱ	4	2								
インプロヴィゼーション	3	4								
ゼミナールⅠ	3	2	—	2	2	—	—	—	—	2
ゼミナールⅡ	4	2	—	○	○	—	—	—	—	○
音楽特別演習Ⅰ	2	2	2			2	2	2	2	2
音楽特別演習Ⅱ	3	2	2			2	2	2	2	2
音楽特別演習Ⅲ	4	2								
卒業論文・演奏・作品	4	8	8	8	8	8	8	8	8	8

注1 理論コースの学生は、3科目の中から4単位を選択必修。

注2 副科作曲は、情報音楽コースは2年次から履修し、その他のコースは4年次で履修します。

注3 副科声楽は、男子学生が1年次から、女子学生は2年次または3年次から履修を始めます。(ガイダンス時において指示します)

注4 合唱は、1・2年次は女声合唱のみ。混声合唱は、3・4年次江古田のみで開講するため、男子は全コースとも3年次から履修を始めます。

注5 オーケストラは、弦楽コースのギター専攻生のみ必修科目としません。また管打楽コースはユーフォニウムとサクソフォン専攻生は準必修科目としません。

## V 文 芸 学 科

### 1 文芸研究の履修について

文芸研究は、表現活動の実践的な知識と能力の修得を目的としたゼミナール形式の講座であり、下記の通り1年次から4年次まで段階的に履修（必修）しなければなりません。

●文芸研究Ⅰ（1年次）、文芸研究Ⅱ（2年次）、文芸研究Ⅲ（3年次）、文芸研究Ⅳ（4年次）

なお、文芸研究Ⅲと文芸研究Ⅳは2年間継続して履修しなければなりません。

☆ただし、再履修する場合は、再履修科目と学年次指定科目を同時に履修することができます。

例：1年次に文芸研究Ⅰの単位を修得できなかった場合、2年次に文芸研究Ⅰと文芸研究Ⅱを同時に履修することができます。

### 2 文芸入門講座について

文芸入門講座は必修科目です。1年次に履修してください。

### 3 選択必修科目について

卒業までに理論・歴史部門から16単位以上、研究部門から16単位以上を修得しなければなりません。

### 4 卒業論文・制作について

4年次に必ず履修してください。

授 業 科 目 名	授業年次	単 位 数	必 修	選 択
<b>A 理 論 ・ 歴 史 部 門</b>				
文 芸 理 論	1	4	但し、A理論・歴史部門からは、卒業までに16単位以上修得しなければならない。	4
文 学 概 論	1	4		4
文 芸 創 作 論 I	1	4		4
文 芸 創 作 論 II	1	4		4
文 芸 創 作 論 III	3	4		4
文 芸 創 作 論 IV	3	4		4
言 語 学	3	4		4
作 家 作 品 論	3	4		4
ジ ャ ー ナ リ ズ ム 論 I	1	4		4
ジ ャ ー ナ リ ズ ム 論 II	3	4		4
日 本 文 芸 史 I	3	4		4
日 本 文 芸 史 II	3	4		4
イ ギ リ ス 文 芸 史	1	4		4
ア メ リ カ 文 芸 史	3	4		4
ド イ ツ 文 芸 史	1	4		4
フ ラ ン ス 文 芸 史	1	4		4
ロ シ ア 文 芸 史	3	4		4
外 国 文 学	1	4		4
マ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 史	1	4		4
日 本 文 化 史	3	4		4
文 体 論	3	4	4	
近 代 思 想 論	3	4	4	
文 化 概 論	3	4	4	

授 業 科 目 名	授業年次	単 位 数	必 修	選 択
<b>B 研 究 部 門</b>				
文芸特殊講義Ⅰ	3	4	但し、B研究 部門からは、 卒業までに16 単位以上修得 しなければならない。	4
文芸特殊講義Ⅱ	3	4		4
文芸特殊講義Ⅲ	1	4		4
文芸特殊講義Ⅳ	3	4		4
文芸特殊講義Ⅴ	3	4		4
文芸特殊講義Ⅵ	3	4		4
文芸特殊講義Ⅶ	3	4		4
文芸特殊講義Ⅷ	3	4		4
文芸特殊講義Ⅸ	1	4		4
新雑誌研究	3	4		4
詩歌論	3	4		4
小説論	3	4		4
戯曲論(文芸)	3	4		4
文芸批評論	3	4		4
古典文学論	3	4		4
翻訳文学論	3	4		4
伝記論	3	4		4
メディア論	3	4		4
マンガ論	1	4		4
エンターテインメント文学論	1	4	4	
現代詩研究	3	4	4	
エッセイ研究	3	4	4	
ノンフィクション研究	3	4	4	
風俗論	1	4	4	
児童文学論	3	4	4	
シナリオ研究	3	4	4	
英米文学原典講読Ⅰ	1	2	2	
英米文学原典講読Ⅱ	3	2	2	
独文学原典講読	3	2	2	
仏文学原典講読	3	2	2	
文芸特別講座Ⅰ	1	2	2	
文芸特別講座Ⅱ	3	2	2	
<b>C 表 現 技 術 部 門</b>				
文芸入門講座	1	4	4	
文芸研究Ⅰ	1	4	4	
文芸研究Ⅱ	2	4	4	
文芸研究Ⅲ	3	4	4	
文芸研究Ⅳ	4	4	4	
文芸特殊研究Ⅰ	3	4		4
文芸特殊研究Ⅱ	1	4		4

授 業 科 目 名	授業年次	単 位 数	必 修	選 択
編 集 研 究	3	4		4
編 集 演 習	3	2		2
文 芸 創 作 実 習 I	1	2		2
文 芸 創 作 実 習 II	1	2		2
文 芸 創 作 実 習 III	3	2		2
ジャーナリズム実習 I	1	2		2
ジャーナリズム実習 II	1	2		2
ジャーナリズム実習 III	3	2		2
文 芸 研 究 実 習 I	1	2		2
文 芸 研 究 実 習 II	1	2		2
文 芸 研 究 実 習 III	3	2		2
D T P 実 習 I	1	2		2
D T P 実 習 II	1	2		2
D T P 実 習 III	3	2		2
マ ン ガ 実 習	3	2		2
卒 業 論 文 ・ 制 作	4	8	8	
<b>D 教 職 教 科 部 門</b>				
国 語 学	2	4	教職教科部門は教職課程を 修得していくための科目な ので、卒業単位には含まれ ません。(P.58参照のこと)	
国 文 学	2	4		
漢 文 学	3	4		
漢 文 学 史	3	4		
書 道	3	4		

\*授業年次は、履修可能最低学年次を示します。

\*段階制科目は授業年次の欄の最低学年次より履修しなければなりません。

## VI 演劇学科

演劇学科の科目履修については、主として演習・実習科目の履修にかかわるコース制度と、3・4年次の主として研究・演習科目の履修にかかわるゼミナールのシステムがあるので、理解しておかなければなりません。

コース制度は、必修等の科目指定、クラスの編成などにかかわりがあります。(コースに関する規定は年次によって異なることがあるので、毎年度初頭のガイダンスに注意してください。)

ゼミナールのシステムとは、卒業のための要件である卒業論文・制作の提出・発表にむけて、3年次のゼミナール(I～VI)と4年次の卒業ゼミナールをそれぞれ履修条件を満たしたうえで選択的に受講してゆく、というものです。(開設されるゼミナールは年度によって異なることがあるので、ガイダンス・掲示などに注意してください。)

\*授業年次は履修可能最低学年または履修学年を示します。(1・2年次に指定された科目は所沢校舎のみの開講なので2年次終了時までには必ず修得してください。)

\*必修の欄に単位数の記載のある科目は卒業要件にかかわる必修科目および選択必修科目です。

\*コースごとの欄に単位数の記載のある科目は各コースの指定科目です。

\*理論・歴史および研究部門の選択科目は(コース指定のある科目についても)全コースの学生が履修できます。表現技術部門の科目については、コースの限定その他の履修条件が付されるものがあるので、演劇学科によるガイダンスまた受講年度のシラバスにおける履修条件の項に注意してください。

授業科目名	授業年次	単位数	必修	選択	劇作	演出	演技	装置	照明	日舞	洋舞	企画制作
<b>A 理論・歴史部門</b>												
演劇概論Ⅰ	1	2	2									
演劇概論Ⅱ	1	2	2									
舞踊学	3・4	2		2								
パフォーマンス学	3・4	2		2								
劇場論Ⅰ	3・4	2		2								
劇場論Ⅱ	3・4	2		2								
戯曲論	3・4	2		2	2							
演出論	3・4	2		2		2						
演技論	2	2		2			2					
日本舞踊論	3・4	2		2						2		
西洋舞踊論	3・4	2		2							2	
演劇教育論Ⅰ	3・4	2		2								
演劇教育論Ⅱ	3・4	2		2								
演劇史Ⅰ	1	2	2									
演劇史Ⅱ	1	2	2									
日本近世演劇史	3・4	2		2								
日本近代演劇史	3・4	2		2								
日本芸能史	2	2		2								
日本舞踊史	2	2		2						2		
西洋舞踊史	2	2		2							2	
<b>B 研究部門</b>												
演劇特殊研究Ⅰ	3・4	2		2								
演劇特殊研究Ⅱ	3・4	2		2								
演劇特殊研究Ⅲ	3・4	2		2								
演劇特殊研究Ⅳ	3・4	2		2								
演劇特殊研究Ⅴ	3・4	2		2								
作家作品研究Ⅰ	3・4	2		2								
作家作品研究Ⅱ	3・4	2		2								

授業科目名	授業年次	単位数	必修	選択	劇作	演出	演技	装置	照明	日舞	洋舞	企画制作	
演劇学研究Ⅰ	3・4	2		2									
演劇学研究Ⅱ	3・4	2		2									
演劇美学研究	3・4	2		2									
東洋演劇研究	3・4	2		2									
現代演劇研究Ⅰ	3・4	2		2									
現代演劇研究Ⅱ	3・4	2		2									
応用演劇研究	3・4	2		2									
演劇福祉研究	3・4	2		2									
演劇批評研究	3・4	2		2									
民俗芸能研究	3・4	2		2									
能・狂言研究	3・4	2		2									
歌舞伎研究	3・4	2		2									
ミュージカル研究	3・4	2		2									
大衆芸能研究	3・4	2		2									
近松研究	3・4	2		2									
シエクスピア研究	3・4	2		2									
装置研究	3・4	2		2				2					
照明研究	3・4	2		2					2				
音響効果研究	3・4	2		2									
舞台技術研究	3・4	2		2									
扮装研究	3・4	2		2									
企画制作研究Ⅰ	3・4	2		2								2	
企画制作研究Ⅱ	3・4	2		2									
企画制作研究Ⅲ	3・4	2		2									
演劇特別講座Ⅰ	3・4	2		2									
演劇特別講座Ⅱ	3・4	2		2									
<b>C 表現技術部門</b>													
戯曲演習	1	2	2(※)	2									※劇作コース必修
企画制作演習	1	2	2(※)	2									※企画制作コース必修
演出演習	1	2	2(※)	2									※演出コース必修
演技演習	1	2	2(※)	2									※演技コース必修
日本舞踊演習	1	2	2(※)	2									※日舞コース必修
西洋舞踊演習	1	2	2(※)	2									※洋舞コース必修
舞台装置演習	1	2	2(※)	2									※装置コース必修
舞台照明演習	1	2	2(※)	2									※照明コース必修
音響効果演習	1	2		2									
舞台技術演習	1	2		2									
劇作実習Ⅰ	1	2		2	2								
劇作実習Ⅱ	1	2		2	2								
劇作実習Ⅲ	2	2		2	2								
劇作実習Ⅳ	2	2		2	2								
企画制作実習Ⅰ	1	2		2								2	
企画制作実習Ⅱ	1	2		2								2	
企画制作実習Ⅲ	2	2		2								2	
企画制作実習Ⅳ	2	2		2								2	
演出実習Ⅰ	1	2		2		2							
演出実習Ⅱ	1	2		2		2							
演出実習Ⅲ	2	2		2		2							
演出実習Ⅳ	2	2		2		2							

授業科目名	授業 年次	単位数	必修	選択	劇作	演出	演技	装置	照明	日舞	洋舞	企画 制作	
演技実習Ⅰ	1	2		2			2						
演技実習Ⅱ	1	2		2			2						
演技実習Ⅲ	2	2		2			2						
演技実習Ⅳ	2	2		2			2						
日本舞踊実習Ⅰ	1	2		2						2			
日本舞踊実習Ⅱ	1	2		2						2			
日本舞踊実習Ⅲ	2	2		2						2			
日本舞踊実習Ⅳ	2	2		2						2			
西洋舞踊実習Ⅰ	1	2		2							2		
西洋舞踊実習Ⅱ	1	2		2							2		
西洋舞踊実習Ⅲ	2	2		2							2		
西洋舞踊実習Ⅳ	2	2		2							2		
舞台装置実習Ⅰ	1	2		2				2					
舞台装置実習Ⅱ	1	2		2				2					
舞台装置実習Ⅲ	2	2		2				2					
舞台装置実習Ⅳ	2	2		2				2					
舞台照明実習Ⅰ	1	2		2					2				
舞台照明実習Ⅱ	1	2		2					2				
舞台照明実習Ⅲ	2	2		2					2				
舞台照明実習Ⅳ	2	2		2					2				
古典演劇実習Ⅰ	3・4	2		2									
古典演劇実習Ⅱ	3・4	2		2									
演劇基礎実習	1	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	
舞台総合実習Ⅰ	2	3		3									
舞台総合実習Ⅱ	2	3		3									
舞台総合実習Ⅲ	3・4	3		3									
舞台総合実習Ⅳ	3・4	3		3									
舞台総合実習Ⅴ	3・4	3		3									
演劇プロデュース実習	3・4	2		2								2	
演劇教育実習	3・4	2		2									
舞台扮装実習	3・4	2		2									
東洋舞踊実習	3・4	2		2									
演劇批評実習	3・4	2		2									
応用演劇実習Ⅰ	3・4	2		2									
応用演劇実習Ⅱ	3・4	2		2									
演劇特殊実習Ⅰ	3・4	2		2									
演劇特殊実習Ⅱ	3・4	2		2									
特殊演習Ⅰ	3・4	2		2									
特殊演習Ⅱ	3・4	2		2									
ゼミナールⅠ	3	2	2(※)	2									
ゼミナールⅡ	3	2	2(※)	2									
ゼミナールⅢ	3	2	2(※)	2									
ゼミナールⅣ	3	2	2(※)	2									
ゼミナールⅤ	3	2	2(※)	2									
ゼミナールⅥ	3	2	2(※)	2									
卒業ゼミナール	4	2		2									
卒業論文・制作	4	8	8										

※選択必修

## Ⅶ 放送学科

### 1 専攻について

専攻は、実習を中心に据えて、その周辺に配置された演習、実習科目やその他の理論系科目と緊密な連携をとりながら、各専門分野について総合的に学ぶ場です。

専攻は以下の分野に分かれています。いずれかひとつの専攻を選択し、実習については、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの段階を履修しなければなりません。(選択必修)

#### 【専攻分野】

テレビ制作	ラジオ制作	映像技術	音響技術	CM
-------	-------	------	------	----

#### 【実習】

1年次 (選択必修)	2年次 (選択必修)	3年次 (選択必修)
テレビ制作Ⅰ	テレビ制作Ⅱ	テレビ制作Ⅲ
ラジオ制作Ⅰ	ラジオ制作Ⅱ	ラジオ制作Ⅲ
映像技術Ⅰ	映像技術Ⅱ	映像技術Ⅲ
音響技術Ⅰ	音響技術Ⅱ	音響技術Ⅲ
CMⅠ	CMⅡ	CMⅢ

専攻を途中で変更する場合は、実習については、新たにⅠの段階より履修しなければなりません。

また、独立して「脚本実習」「アナウンス実習」が段階的に設置されています。この二つの実習科目は、専攻分野の目的と合わせて並行受講することができます。ただし、受講に際しては、それぞれの演習の単位を取得しなければなりません。(選択)

2年次 (選択/履修条件あり)	3年次 (選択/履修条件あり)
脚本実習Ⅰ	脚本実習Ⅱ
アナウンス実習Ⅰ	アナウンス実習Ⅱ

### 2 演習について

演習は、放送表現に関わる基礎知識・技術を実践的に習得する場です。

### 3 卒業研究ゼミナール/卒業研究について

各専攻分野で学んできた成果を計るために、4年次では、卒業研究(論文/制作/発表など)を提出しなければなりません。そのため、3年次より2年間にわたって、各自の専攻、制作、研究分野に合わせて卒業研究ゼミナールを履修し、指導を受けることになります。(必修)

\*なお、上記科目等の詳細については、授業計画(シラバス)及び学科履修要項を参照して下さい。

授 業 科 目 名	授業年次	単 位 数	必 修	選 択
<b>A 理論・歴史部門</b>				
放送概論	1	4		4
テレレビ	1・2	4		4
ラジオ	1・2	4		4
放送文化	1・2	4		4
放送社	1・2	4		4
放送制	2	4		4
広告概	2	4		4
電気概	2	4		4
放送契	3・4	4		4
放送事	3・4	4		4
情報通	3・4	4		4
言語学	3・4	4		4
音響心	3・4	4		4
<b>B 研究部門</b>				
社会調	2	4		4
番組編	3・4	4		4
ラジオの編成と制作	3・4	4		4
視聴者調査論	3・4	4		4
放送と教育	3・4	4		4
スポーツ番組研究	3・4	4		4
制作技術研究	3・4	4		4
広告とマーケティング戦略	3・4	4		4
作品研究Ⅰ	2	4		4
作品研究Ⅱ	2	4		4
作品研究Ⅲ	3・4	4		4
作品研究Ⅳ	3・4	4		4
作品研究Ⅴ	3・4	4		4
作品研究Ⅵ	3・4	4		4
作品研究Ⅶ	3・4	4		4
作品研究Ⅷ	3・4	4		4
作品研究Ⅸ	3・4	4		4
作品研究Ⅹ	3・4	4		4
放送特殊研究Ⅰ	3・4	4		4
放送特殊研究Ⅱ	3・4	4		4
放送特殊研究Ⅲ	3・4	4		4
放送特殊研究Ⅳ	3・4	4		4
放送特殊研究Ⅴ	3・4	4		4
放送特殊研究Ⅵ	3・4	4		4
放送特殊研究Ⅶ	3・4	4		4
放送特殊研究Ⅷ	3・4	4		4
放送特殊研究Ⅸ	3・4	4		4
放送特殊研究Ⅹ	3・4	4		4
卒業研究ゼミナールⅠ	3	2	2	
卒業研究ゼミナールⅡ	4	2	2	
放送特別講座Ⅰ	3・4	2		2
放送特別講座Ⅱ	3・4	2		2
<b>C 表現技術部門</b>				
放送脚本論	2	4		4
テレビ演出論	2	4		4
ラジオ演出論	2	4		4

授 業 科 目 名	授業年次	単 位 数	必 修	選 択
放 送 報 道 論	2	4		4
放 送 広 告 論	2	4		4
放 送 技 術 概 論	2	4		4
映 像 技 術 論 I	2	4		4
音 響 技 術 論 I	2	4		4
ドキュメンタリーの演出	3・4	4		4
テレビドラマの表現	3・4	4		4
放送表現と人権論	3・4	4		4
放送美術論 II	3・4	4		4
映像技術論 II	3	4		4
映像制作演習	1	1	1	
音響制作演習	1	1	1	
ア ナ ウ ン ス 演 習	1	1		1
脚 本 演 習	1	1		1
企 取 材 調 査 演 習	1	1		1
テ レ ジ ビ オ 制 作 I	1	1		1
映 音 像 技 術 I	1	1		1
音 響 技 術 I	1	1		1
C M I	1	1		1
テ レ ビ 制 作 II	2	2		2
映 音 像 技 術 II	2	2		2
音 響 技 術 II	2	2		2
C M II	2	2		2
脚 本 実 習 I	2	2		2
ア ナ ウ ン ス 実 習 I	2	2		2
テ レ ビ 企 画 構 成 演 習 I	2	2		2
ラ ジ オ 企 画 構 成 演 習 I	2	2		2
コ ピ ー ・ コ ン テ 演 習 I	2	2		2
ニ ュ ー ス 分 析 I	2	2		2
ル ポ ル タ ー ジ ュ I	2	2		2
テ レ ビ 制 作 III	3	2		2
ラ ジ オ 制 作 III	3	2		2
映 音 像 技 術 III	3	2		2
音 響 技 術 III	3	2		2
C M III	3	2		2
脚 本 実 習 II	3	2		2
ア ナ ウ ン ス 実 習 II	3	2		2
テ レ ビ 企 画 構 成 演 習 II	3・4	2		2
ラ ジ オ 企 画 構 成 演 習 II	3・4	2		2
コ ピ ー ・ コ ン テ 演 習 II	3・4	2		2
ニ ュ ー ス 分 析 II	3・4	2		2
ル ポ ル タ ー ジ ュ II	3・4	2		2
照 明 演 習	3・4	2		2
文 章 講 座	3・4	2		2
卒 業 研 究	4	8	8	

## Ⅷ デザイン学科

デザイン学科では、履修する主要科目の違いによって以下のコースに分かれます。

コミュニケーションデザイン（CD）

インダストリアルデザイン（ID）

建築デザイン（AD）

### 1 履修上の注意

- ① 1年次には、各コースの専門授業に入る前に、基礎的な素養を身につけるための実習・演習授業が、3コース共通で組まれています。従って、1年次のその実習・演習科目のうち、各コースの定める科目の単位を修得しなければ、2年次の演習科目を履修することはできません。特に4年次には、ゼミナール、卒業論文・制作に集中できる履修計画をたてることが望まれます。なお、転コース学生は別に指示します。
- ② 別表の授業年次に従って必ず履修し単位を修得してください。時間割は年度ごとに変更されますので、卒業に関わる単位修得に十分注意し、余裕をもった履修計画を立てること。
- ③ 別表のコース欄に単位数の記載がある科目は、コースの必修科目なので必ず修得しなければなりません。
- ④ 別表のコース欄に○印が付してある科目は、そのコースの必修科目ではありませんが、優先的に履修してください。
- ⑤ 別表のコース欄に単位数の記載がない科目は、原則的に選択科目として授業年次に履修することができます。
- ⑥ 編入、転部、転学科の学生には前籍大学、学部、学科等で修得した科目の単位認定の上で、別に指示します。
- ⑦ 別表の授業年次、1・2年次となっている科目は江古田校舎では開講していません。2年次までに必ず履修し単位を修得すること。
- ⑧ 同じ曜日に江古田・所沢両校舎の開講授業を登録する場合は、必ず前後1時限空けてください。また昼休みをはさんでいても2時限目と3時限目を続けて登録することもできません。

### 2 各コースの履修方法について

#### ① コミュニケーションデザインコースについて

- (1) 1年次必修科目のうち下記必修科目の単位を修得していなければ、2年次のコミュニケーションデザイン専門演習を履修することはできません。  
※ドローイング ※造形基礎Ⅰ・Ⅲ ※製図Ⅰ
- (2) 1年次の実習・演習必修科目をすべて修得していなければ、3年次の演習科目を履修することはできません。
- (3) 3年次の演習科目中、2科目8単位以上を修得しなければ、4年次のゼミナール、卒業制作にとりかかるとはできません。
- (4) 4年次には、ゼミナール4単位と卒業制作8単位を必ず修得しなければなりません。

#### ② インダストリアルデザインコースについて

- (1) 1年次必修科目のうち下記必修科目の単位を修得していなければ、2年次のインダストリアルデザイン専門演習を履修することはできません。  
※ドローイング ※造形基礎Ⅲ・Ⅳ ※製図Ⅰ

- (2) 1年次の実習・演習必修科目及び2年次の演習必修科目をすべて修得していなければ、3年次の演習科目を履修することはできません。
- (3) 3年次の演習必修科目及び選択必修科目2科目4単位以上を修得していなければ、4年次のゼミナール、卒業制作にとりかかることはできません。
- (4) 4年次には、ゼミナール4単位と卒業制作8単位を必ず修得しなければなりません。

### ③ 建築デザインコースについて

- (1) 1年次必修科目のうち下記必修科目の単位を修得していなければ、2年次の建築デザイン専門演習を履修することはできません。

※ドローイング ※造形基礎Ⅲ・Ⅳ ※製図Ⅰ・Ⅱ

- (2) 1年次の実習・演習必修科目及び2年次の演習必修科目をすべて修得していなければ、3年次の演習科目を履修することはできません。
- (3) 3年次の演習2科目8単位以上を修得しなければ、4年次のゼミナール、卒業制作にとりかかることはできません。
- (4) 4年次には、ゼミナール4単位と卒業制作8単位を必ず修得しなければなりません。
- (5) 建築デザインコースでは、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験資格に関する認定を受けていますが、卒業後全員が無条件で受験資格を得られるものではありません。卒業後に受験志望する建築士によって修得しなければならない指定科目が設定されています。別表を参考として必要な指定科目を各自確認の上、それぞれの進路に応じた履修計画をたてること。資格取得に向けて建築士試験の指定科目制度を理解し、必要な指定科目を履修し定められた単位を各自の責任において必ず修得すること。また、詳細は、ガイダンス時に説明をしますので、必ず出席の上、受講手続きを取ること。
- (6) 別表のコース欄に□印が付してある科目は、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験資格に必要な指定科目です。指定科目に関する詳細資料は、ガイダンス時に配布します。

授 業 科 目 名	授業年次	単位数	C D	I D	A D
<b>A 理 論 ・ 歴 史 部 門</b>					
デ ザ イ ン 論 I	1	2	2	2	2
デ ザ イ ン 論 II	1	2	2	2	2
ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン 論	3	2		○	
美 術 学	3・4	4			
色 彩 学 I	1・2	2	○	○	○
色 彩 学 II	1・2	2	○	○	○
生 活 文 化 論 I	3・4	2		○	2
生 活 文 化 論 II	3・4	2		○	2
環 境 論 I	3・4	2		○	□・2
環 境 論 II	3・4	2		○	□・2
日 本 建 築 史	2	2			□・2
西 洋 建 築 史	3・4	2			□・2
美 術 史 概 論	1・2	2			
工 芸 概 論	1・2	2			
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン デ ザ イ ン 史 I	3・4	2	○		
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン デ ザ イ ン 史 II	3・4	2	○		
工 業 デ ザ イ ン 史 I	3・4	2		○	
工 業 デ ザ イ ン 史 II	3・4	2		○	

授 業 科 目 名	授業年次	単位数	C D	I D	A D
<b>B 研 究 部 門</b>					
デ ザ イ ン 情 報 論 I	3・4	2		2	
デ ザ イ ン 情 報 論 II	3・4	2		2	
デ ザ イ ン 作 品 論 I	3・4	2	○		
デ ザ イ ン 作 品 論 II	3・4	2	○		
タ イ ポ グ ラ フ ィ 論 I	2	2	2		
タ イ ポ グ ラ フ ィ 論 II	2	2	○		
エ ル ゴ ノ ミ ク ス 概 論 I	3・4	2		2	
エ ル ゴ ノ ミ ク ス 概 論 II	3・4	2		2	
建 築 計 画 I	2	2			□・2
建 築 計 画 II	3	2			□・2
力 学	2	2			□・2
建 築 構 造 I	2	2			□・2
建 築 構 造 II	2	2			□・2
素 材 概 論	2	2			□
メ カ ト ロ ニ ク ス 概 論 I	2	2			
メ カ ト ロ ニ ク ス 概 論 II	2	2			
福 祉 機 器 開 発 論	3・4	2		○	
工 業 デ ザ イ ン 論 I	2	2		2	
工 業 デ ザ イ ン 論 II	2	2		2	
建 築 デ ザ イ ン 論	2	2			□・2
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン デ ザ イ ン 論 I	2	2	2		
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン デ ザ イ ン 論 II	2	2			
デ ザ イ ン マ ネ ー ジ メ ン ト 論 I	3	2		○	
デ ザ イ ン マ ネ ー ジ メ ン ト 論 II	4	2		○	
建 築 設 備 規 則 I	3	2			□・2
建 築 設 備 規 則 II	3	2			□・2
図 学 I	1	2	2	2	□・2
図 学 II	1	2	○	○	□・2
サイエンスコミュニケーション論	3	4	○		
デ ザ イ ン 特 別 講 座 I	2	2			□
デ ザ イ ン 特 別 講 座 II	3・4	2			
<b>C 表 現 技 術 部 門</b>					
デ ザ イ ン 基 礎	1	2	2	2	□・2
ド ロ ー イ ン グ	1	2	2	2	2
製 図 I	1	2	2	2	2
製 図 II	1	2		2	□・2
造 形 基 礎 I	1	2	2	2	2
造 形 基 礎 II	1	2	2		
造 形 基 礎 III	1	2	2	2	2
造 形 基 礎 IV	1	2	2	2	2
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン デ ザ イ ン I	2	4			

授 業 科 目 名	授業年次	単位数	C D	I D	A D	
コミュニケーションデザイン II	2	2	○			
コミュニケーションデザイン III	2	2	○			
コミュニケーションデザイン IV	2	2	○			
コミュニケーションデザイン V	2	2	○			
コミュニケーションデザイン VI	3	4	} 8 以上			
コミュニケーションデザイン VII	3	4				
コミュニケーションデザイン VIII	3	4				
コミュニケーションデザイン IX	3	4				
コミュニケーションデザイン X	3	4				
コミュニケーションデザイン XI	3	4				
コミュニケーションデザイン XII	3	4				
コンピュータグラフィックス	3	4				
写真真技法	3	2	○			
インダストリアルデザイン I	2	4		4		
インダストリアルデザイン II	2	4		4		
インダストリアルデザイン III	3	4		4		
インダストリアルデザイン IV	3	4		4		
インダストリアルデザイン V	2	2	} 8 以上 上選択 必修			
インダストリアルデザイン VI	2	2				
インダストリアルデザイン VII	3	2				
インダストリアルデザイン VIII	3	2				
インダストリアルデザイン IX	3	2				
CADテクニック I	3	2				
CADテクニック II	3	2				
コンピュータ基礎 I	2	2		○		○
コンピュータ基礎 II	2	2				□
建築デザイン I	2	4				□・4
建築デザイン II	2	2			□・2	
建築デザイン III	2	2			□・2	
建築デザイン IV	2	2			□・2	
建築デザイン V	2	2			□・2	
建築デザイン VI	3	4			□	
建築デザイン VII	3	4			□ } 8以上	
建築デザイン VIII	3	4				
建築デザイン IX	3	4				
メディアデザイン I	2	2	○	○	○	
メディアデザイン II	2	2	○	○	○	
メディアデザイン III	3	2	} 8 以上			
メディアデザイン IV	3	2				
特 別 演 習	3	2		○	○	□
総 合 演 習	3	2		○	○	□
ゼミナール	4	4	4	4	4	
卒業論文・制作	4	8	8	8	8	

## III 第三群（学芸員課程）

本学部で学芸員資格取得を希望する者は下記により学芸員課程を履修しなければなりません。

### 1 必修科目（卒業単位には含まれません）

年次	科目名（単位数）	
2・3	博物館概論（2） 博物館学各論Ⅰ・Ⅱ（各2） 教育学概論（2） 生涯学習概論（2） 視聴覚教育メディア論（2）	合計15単位
4	博物館実習（3）	

### 2 選択科目（卒業単位に含まれます）

下表4系列の中から2系列8単位以上を履修してください。選択する系列の組合せは自由ですが、各系列とも最低4単位は修得してください。

系列	科目名（単位数）
文化史	写真史Ⅰ（2） 写真史Ⅱ（2） 日本映画史Ⅰ（2） 日本映画史Ⅱ（2） 外国映画史Ⅰ（2） 外国映画史Ⅱ（2） 記録映画史（4） 音楽史Ⅰ（2） 音楽史Ⅱ（2） 日本文化史（4） 演劇史Ⅰ（2） 演劇史Ⅱ（2） ラジオ史（4） テレビ史（4） コミュニケーションデザイン史Ⅰ（2） コミュニケーションデザイン史Ⅱ（2） 工業デザイン史Ⅰ（2） 工業デザイン史Ⅱ（2） 日本建築史（2） 西洋建築史（2）
美術史	美術史概論Ⅰ（4） 美術史概論Ⅱ（4） 美術史概論（2） 工芸概論（2） 西洋美術史Ⅰ（4） 西洋美術史Ⅱ（4） 日本美術史Ⅰ（4） 日本美術史Ⅱ（4） 芸術史学（4）
民俗学	民俗芸能研究（2） 日本芸能史（2）
考古学	考古学特殊講義（4）

### 3 博物館実習について

- ① 博物館実習履修者は博物館概論，博物館学各論Ⅰ・Ⅱ，教育学概論，生涯学習概論，視聴覚教育メディア論の単位をすべて修得した者としますが，成績状況等により受講者を制限する場合があります。
- ② 実習は4年次に実習授業受講に併行して，学外実習施設あるいは芸術学部芸術資料館において館務実習を行います。詳細は3年次1月，4年次4月のガイダンスで説明しますので必ず出席してください。
- ③ 博物館実習履修者は4年次4月に実習費を徴収します。詳細は4年次4月のガイダンスで説明しますので必ず出席してください。

# IV 教職課程

1 本学部で教育職員免許状取得を希望する者は、下記により教職課程を履修しなければなりません。

## 2 免許教科の種類

①中学校教諭一種免許状

国 語  
音 楽  
美 術

②高等学校教諭一種免許状

国 語  
音 楽  
美 術  
工 芸

## 3 免許状の種類及び本学部における必要修得単位数

A 表

免許状の種類		所要資格	基礎資格	① 基礎 必修 科目 (B表)	専 門 科 目		
					② 教職に関 する科目 (C表)	③ 教科に関 する科目 (D表)	②+③ 計
中 学 校	一種免許状	学士の学位を有すること		8単位 以上	31単位 以上	28単位 以上 ★	59単位 以上
高 等 学 校	一種免許状	学士の学位を有すること		8単位 以上	25単位 以上	34単位 以上	59単位 以上

★ 国語の中・高一種免許状については32単位以上修得する必要があります。

## 4 単位の修得方法

### ① 基礎必修科目

基礎必修科目として「日本国憲法」(2)「体育」(2)「外国語コミュニケーション」(2)「情報機器の操作」(2)計8単位を修得する必要があります、本学部における基礎必修科目はB表のとおりです。

B表 基礎必修科目

法令で定める基礎必修科目 (単位数)	本学部における基礎必修科目 (単位数)	最低修得単位数	計
日本国憲法 (2)	日本国憲法 (2)	2	8
体育 (2)	体育講義 (2) 体育実技 (1)	2	
外国語コミュニケーション (2)	英語Ⅱ (2) ドイツ語Ⅱ (2)	2	
	フランス語Ⅱ (2) 日本語Ⅱ (2)		
情報機器の操作 (2)	情報処理Ⅰ (2) 情報処理Ⅰ<教職> (2)	2	
	情報処理Ⅱ (2) 情報処理Ⅲ (2) 情報処理Ⅳ (2)		

② 教職に関する科目

教職に関する科目の本学部における最低修得単位数はC表に示すとおりです。教育職員免許法施行規則上の修得単位数と全く同じで余剰がありません。全科目必修で31単位修得しなければなりません。C表教職に関する科目は卒業に必要な単位数には含まれません。

C表 本学部における教職に関する科目単位数

年次	必修科目(単位数)	単位数合計	
		中一種	高一種
1	○教育の歴史(2) ○教育の社会学(2) ○現代教職論(2)	6	6
2・3	○発達と学習(2) ○教育相談(2) ○教育の方法・技術論(2) ○生徒指導・進路指導論(2) ○各教科教育法Ⅰ(2) ○各教科教育法Ⅱ(2) ⊕各教科教育法Ⅲ(2) (○各教科教育法Ⅳ(2)) ⊕道徳教育の理論と方法(2) ○特別活動論(2)	18	14
4	○教職実践演習(2) ○教育実践指導(1)※2 ⊕教育実習Ⅰ(4) ○教育実習Ⅱ<高免のみの者>(2)	7	5
計		31	25

C表中の⊕は、中学校一種免許状取得希望者の必修科目で、高等学校一種免許状のみ取得希望者は修得する必要はありません。

(※1) 各教科教育法とは、例えば、国語科教育法、音楽科教育法、美術科教育法、工芸科教育法などのように免許状を取得しようとする教科についての教育法のことです。

(※2) 教育実践指導(1)は4年次修得科目ですが、3年次の6月及び11月に教育実習事前指導として特別講義が行われます。これに出席することで4年次に教育実践指導(1)を登録することができます。(3年次教職用掲示に注意のこと)

(※3) 教育実習は4年次に行います。原則として教育実践指導(1)、教育実習Ⅰ(4)又は教育実習Ⅱ<高免のみの者>(2)以外の教職に関する科目を修得していること及び卒業見込みがあることが条件となります。

教育実習校は2・3年次中に決定します。詳細についてはガイダンスで説明しますので必ず出席してください。

③ 教科に関する科目

修得すべき教科に関する科目は免許教科によって違いがあります。教科別に表示するとD表のようになります。本学部においては、D表中より○印を付した必修科目を含め中・高一種免許状は28単位以上(国語は32単位以上)、高等学校一種免許状のみは34単位以上修得しなければなりません。

(注1) D表中の最低修得単位とは法律上(免許法施行規則)によるものであり、本学部における修得単位数とは異なりますので、注意して下さい。

(注2) D表中の ■■■ 印は美術学科・文芸学科の教職教科部門に属する科目(シラバス・時間割の教職欄記載科目)で、教職免許を取得するための科目であり、卒業単位には含まれません。

D表 教科専門科目修得単位数

免許教科	学科	教科に関する科目	最低修得単 位	芸 術 学 部 開 講 科 目		免許状種類	
				科 目 名 (単位数)		中 一 種 (国 語)	高 一 種 (国 語)
国語		国 語 学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む)	1	○国語学(4) 言語学(4) 文芸創作論Ⅰ(4)	小説論(4) 文芸創作論Ⅱ(4)		
		国 文 学 (国文学史を含む)	1	○国文学(4) 日本文芸史Ⅰ(4) 日本文芸史Ⅱ(4) 文芸批評論(4) 古典文学論(4)	文芸理論(4) 文学概論(4) 比較文学論(4) 日本文化史(4) 作家作品論(4)		
		漢 文 学	1	○漢文学(4) 漢文学史(4)			
		書 道 (書写を中心とする)	1	○書道(4)			
音楽	音楽学科	ソルフェージュ	1	○ソルフェージュⅠ(2) ○ソルフェージュⅡ(2)		中 一 種 (音 楽)	高 一 種 (音 楽)
		声 楽 (合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む)	1	○合唱Ⅰ(2) ○音楽教材演習(2) 声楽Ⅱ・Ⅲ(各4) 合唱Ⅱ(2)	○声楽Ⅰ(4)又は副科声楽Ⅰ(2) 副科声楽Ⅱ(2)		
		器 楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む)	1	○伴奏法Ⅰ(2) ○ピアノⅠ(4)又は副科ピアノⅠ(2) 伴奏法Ⅱ(2) 副科弦楽器Ⅰ(2) 副科管打楽器Ⅰ(2) 副科ピアノⅡ(2)	○教育用楽器等合奏法(2) 弦楽器Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4) 管打楽器Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(各4) ピアノⅡ・Ⅲ(各4)		
		指 揮 法	1	○指揮法演習(2)			
		音楽理論,作曲法(編曲法を含む)及び音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	1	○音楽学Ⅰ(4) ○音楽史Ⅱ(2) 音楽学Ⅱ(4) 雅楽研究(4) 音楽史Ⅵ(2)	○作曲Ⅰ(4)又は副科作曲Ⅰ(2) 音楽形式学(4) 音楽史Ⅰ(2) 作曲Ⅱ・Ⅲ(各4)		

免許 教科	学 科	教科に関する科目	最低修得 単 位	芸 術 学 部 開 講 科 目		免許状 種 類	
				科 目 名 (単位数)			
美術	美術 学 科	絵 画 (映像メディア表現を含む)	1	○デッサン(1) 絵画Ⅰ(4) 版画Ⅰ・Ⅱ(各6)	○デザイン論Ⅱ(2) 絵画Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各6)	中 一 種 (美 術)	高 一 種 (美 術)
		彫 刻	1	彫塑Ⅰ・Ⅱ(各1)	彫刻Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ(各6)		
		デ ザ イ ン (映像メディア表現を含む)	1	○美的構成研究(4) ○映像メディア研究(1) 色彩学(4)	○版画基礎Ⅰ又はⅡ(各1)		
		美術理論及び美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術 及びアジアの美術を含む)	1	○美術学(4) ○美術史概論Ⅰ又はⅡ(各4) 西洋美術史Ⅰ・Ⅱ(各4)	○日本美術史Ⅰ又はⅡ(各4)		
		工 芸	1	○美術教材研究Ⅰ又はⅡ(各2) 工芸演習Ⅰ・Ⅱ(各2) 版画概論(4) 古典技法(1) 美術作品研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各4)	彫刻Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ(各4) 解剖学(4) 近代芸術(4)		
	デザイン 学 科	絵 画 (映像メディア表現を含む)	1	○ドローイング(2) ○造形基礎Ⅱ(2)	○造形基礎Ⅰ(2)	中 一 種 (美 術)	高 一 種 (美 術)
		彫 刻	1	○造形基礎Ⅲ(2)	○造形基礎Ⅳ(2)		
		デ ザ イ ン (映像メディア表現を含む)	1	○デザイン論Ⅰ(2) ○デザイン基礎(2) コミュニケーションデザインⅠ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ(各4) インダストリアルデザインⅠ・Ⅲ(各4) 建築デザインⅠ・Ⅵ(各4)	○デザイン論Ⅱ(2) コミュニケーションデザインⅡ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(各2) インダストリアルデザインⅤ(2)		
		美術理論及び美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術 及びアジアの美術を含む)	1	○美術学(4) ○工芸概論(2) 日本建築史(2) 工業デザイン史Ⅰ・Ⅱ(各2) 建築デザイン論(2) コミュニケーションデザイン論Ⅰ・Ⅱ(各2)	○美術史概論(2) 西洋建築史(2) 工業デザイン論Ⅰ・Ⅱ(各2) コミュニケーションデザインⅠ・Ⅱ(各2)		
		工 芸	1	コミュニケーションデザインⅡ・Ⅴ・Ⅶ(各4) インダストリアルデザインⅧ(2) 写真技法(2) 建築デザインⅦ・Ⅷ(各4)	インダストリアルデザインⅡ・Ⅳ(各4) コンピュータグラフィックス(4) 建築デザインⅡ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(各2)		

免許 教科	学 科	教科に関する科目	最低修得 単 位	芸 術 学 部 開 講 科 目		免許状 種 類
				科 目 名 (単位数)		
工 芸	美 術 学 科	図法及び製図	1	○図学Ⅰ又はⅡ(各2)		高 一 種 (工 芸)
		工芸制作 (プロダクト制作を含む)	1	○美術教材研究Ⅰ又はⅡ(各2) ○工芸演習Ⅰ又はⅡ(各2) 彫刻Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ(各4)		
		工芸理論, デザイン理 論及び美術史(鑑賞並 びに日本の伝統工芸及 びアジアの工芸を含む)	1	○デザイン論Ⅰ又はⅡ(各2) ○美術作品研究Ⅰ又はⅡ(各4) ○美術作品研究Ⅲ又はⅣ(各4) 版画概論(4) 解剖学(4) 古典技法(1) 近代芸術(4)		
		デザイン	1	○美的構成研究(4) ○版画基礎Ⅰ又はⅡ(各1) 色彩学(4)		
	デ ザ イ ン 学 科	図法及び製図	1	○図学Ⅰ(2) ○製図Ⅰ(2) 図学Ⅱ(2) 製図Ⅱ(2)		高 一 種 (工 芸)
		工芸制作 (プロダクト制作を含む)	1	○コミュニケーションデザインⅠ(4)又はインダストリアルデザインⅡ(4) 若しくは建築デザインⅤ(2) コミュニケーションデザインⅦ・Ⅷ・Ⅸ(各4) コンピュータグラフィックス(4) 写真技法(2) インダストリアルデザインⅣ(4) インダストリアルデザインⅩ(2) 建築デザインⅡ・Ⅲ・Ⅳ(各2) 建築デザインⅦ・Ⅷ(各4)		
		工芸理論, デザイン 理論及び美術史(鑑 賞並びに日本の伝統 工芸及びアジアの工 芸を含む)	1	○デザイン論Ⅰ(2) ○デザイン論Ⅱ(2) ○美術史概論(2) ○工芸概論(2) ユニバーサルデザイン論(2) デザイン情報論Ⅰ・Ⅱ(各2) タイポグラフィ論Ⅰ・Ⅱ(各2) エルゴノミクス概論Ⅰ・Ⅱ(各2) 建築計画Ⅰ・Ⅱ(各2) 素材概論(2)		
		デザイン	1	○デザイン基礎(2) コミュニケーションデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各4) コミュニケーションデザインⅤ・Ⅵ・Ⅶ(各2) インダストリアルデザインⅠ・Ⅲ(各4) インダストリアルデザインⅣ(2) 建築デザインⅠ・Ⅱ(各4)		

## 5 介護等体験について

中学校の教育職員免許状取得希望の者(高等学校のみは除く)は, 取得条件として, 7日間の介護等体験(社会福祉施設で5日間, 特別支援学校で2日間)が義務づけられております。

本学部では, 介護等体験は2年次生以上を対象に実施しています。詳細は4月に2年次生対象のガイダンスで説明しますので必ず出席してください。また, 体験費は4月に徴収します。

なお, 教職課程についてのガイダンスは, 原則として在学生ガイダンス期間中に行いますので, 日程などは, 教務課掲示に注意してください。(不明な点は, 両校舎教務課まで)

## 6 教育職員免許状一括申請について

最終学年に本学がまとめて授与権者である東京都教育委員会に申請します。4月に申請の申込み, 1月に申請内容の確認・申請料納入手続きなどを行います。詳細は4年次4月のガイダンスで説明しますので必ず出席してください。